



## 特集「自分らしい暮らしを求めて」

新たな1年が始まりました。いつもと変わらない日常を過ごす人もいれば、今年こそ何かを始めてみようと思う人もいるかもしれません。

リモートワークなどの普及により、働く場所も柔軟に対応でき、働き方も多様化してきました。それに合わせて、暮らしに対する考え方も大きく変化してきていて、今までの物に溢れた利便性の高い都会での暮らしから、都会の喧騒から離れてゆったりと過ごせる暮らしや自然に囲まれた場所で子育てができる暮らしなど、地方への注目度も高まってきています。

本市でも新しい暮らしを求め、まちの魅力を肌で感じようと訪れる人もいます。まちに息づく自然、文化、産業などがここで暮らす人たちの豊かさになっていくことをその目で見て、知ることです。新しい生活が見えてくるかもしれません。

今回は、移住を考える人が見た宇和島の魅力とこのまちで新たな暮らしを始めた人の思いをお届けします。



## 暮らしを感じる旅を

本市では、まちの魅力を高め、選ばれるまちを目指しています。特に移住施策では都心部での移住フェアを行い、それに加えて現地でしか伝わらない気候や文化をより知ってもらおうと平成29年から移住体感ツアーを行っています。

今回の移住体感ツアーの参加者は4人で、宇和島に興味を持ってくださったさまざまな年代の人たちでした。ほとんどが宇和島を初めて訪れたということで、2泊3日の限られた時間ですが、ただ観光として訪れるときとは違った、私たちが生活の中で利用している施設の案内や歴史と文化が感じられる場所、基幹産業の話や収穫体験などを盛り込み、少しでも宇和島の暮らしを感じてもらえるようなコースを回りました。





## 説明だけではなく 思いも込めて伝える

それぞれの場所には案内人がいて、その場所にまつわる歴史や自分たちの育てている自然の恵みへの愛情や暮らしについて話してくれました。ツアーの中で参加者が特に興味を持ったのは、宇和島の自然から生み出される恵みとそこに関わる人たちの温かさでした。

遊子水荷浦の段畑では「この石垣はどうやって積み上げたんですか」「何が作られているんですか」などの質問をして、その雄大な景色をじっと見つめていました。柑橘農家のニノファームさんでは、美味しい柑橘の見分け方を教えてもらいながら柑橘の収穫体験をし、収穫したみかんの糖度を競うゲームが行われました。皆さんが真剣な表情で選んだみかんを糖度計で計測し、結果発表の時を待ちます。その結果に「えーこんなに甘いのに」と声が上がって「美





味しいからいっか」とお互いで選んだみかんを分け合っていました。真鯛養殖業者の榊タイチさんでは、海の環境を守ることに養殖へのこだわりと思いを感じる真鯛セミナーを受けました。近くの見せ場を見せてもらって、せっかくの出会いだからと全員で記念撮影も行いました。この日は先輩移住者との交流会も開かれ、今の宇和島での暮らしの様子を聞き、イメージを膨らませていました。交流会中に先輩移住者から出てきた「生活にゆとりが生まれて、心が豊かになった」という言葉が心に残ったと話していました。

### ココロを動かした 人の温かさ

ツアー最終日には睦地梅太郎美術館を鑑賞後に全員で旅の振り返りを行い、参加者から「実際に来て、感じることで全部



ではないがよく知れた気がした」「特に目的もなくやってきたが、土地も人もよかった。各所で地元の人の生き方を交えながら話を聞いたことが特によかった」とうれしい感想がありました。

参加者の皆さんの初めて訪れたときの少し不安そうな表情がいつの間にか帰りを惜しむ表情へ変わっていました。参加者の1人は、都会で生まれ育ち、地方への移住を考えていくつかの場所を巡っているとのことでした。このツアーをネットで見つけてすぐ申し込んだそうですが、宇和島のこととは全く知らなかったそうです。その行動力がきっかけで生まれた縁が、このツアーでの出会いを生み、触れ合うことでさらに深まりました。今後、移住に向けて体験住宅を利用して暮らしてみたいという話へと繋がりました。



## 自然を感じ、 趣味を楽しむ

昨年10月に宇和島へ地域おこし協力隊として着任した保坂諒一さんは、空き家バンクの登録増加と移住者の相談サポートを行っていきます。相談者に対してより近い視点を持つ保坂さんだからこそできる話をしています。

移住するきっかけとなったのは、海が近くていつでも趣味の釣りができるところに住んで、自分の実力を発揮したいと

いう思いでした。

移住するまでは東京で暮らしていた保坂さんに現在の宇和島の暮らしでの印象を聞くと「コンパクトな街で不便過ぎない場所」とのこと。片道1時間かけて満員電車で揺られる生活を送っていた都会に比べ、自転車で快適に通勤でき、ストレスも無くなったと言います。また、家から山が見え、ちよつと歩くと海がある生活は穏やかに過ごせる場所だと感じている

## 便利さと 不便さを選べる

そうです。

保坂さんから見ても今移住を考えている人は、自分に合った働き方を見つめたい、子育ての環境を変えたい、趣味の時間を充実させたいなど考え方はさまざまだと感じるそう。その点宇和島での暮らしは、自分がどこに重きを置くかで「自然にどっぷり浸かる暮らし」「ある程度便利な暮らし」といった生活スタイルをどちらでも選べるのが魅力と話します。

保坂さんは「元いた都会に比べれば、店がたくさんあるわけではないし、移動が便利なわけではないですが、病院やスーパー、学校があって自然にも恵まれている。何より温かい人ばかりでとても満足しています」とその表情には充実感が溢れていました。

## うわじま移住応援隊

移住者や移住検討者の宇和島市への移住・定住をサポートするため、市民や企業、団体などの連携によりオール宇和島で移住者が安心して生活できる環境を整えることを目指して結成しています。宇和島での暮らしを考えている人を一緒にサポートしてみませんか。

### 活動内容

- (1) 移住・定住を促進するために必要な情報を移住希望者に発信する。
- (2) 市が実施する移住・定住施策の推進に必要な情報を市に提供する。
- (3) 移住希望者などからの相談に関する助言・協力などを行う。 など



ID: 0076325

☎ 企画課移住定住推進室 ☎ 49-7105



## 自分が心地よくいられる場所にいたら、 それが正解なのかもしれない。

### 自分にとっての豊かさとは

皆さんが求める暮らしはどんなものでしょうか。たくさんの人やモノで溢れ、公共交通機関など移動手段が充実した便利さを豊かと感じられる暮らしでしょうか。それとも、人が少なく移動手段が限られた場所でも多くの自然に囲まれて、ゆっくりとした時間を過ごす穏やかさを豊かと感じられる暮らしでしょうか。

今回のツアー参加者からは「のどかな環境や景色、地元への愛を感じる人からの温かさが伝わったことがとても魅力的だった」と話してもらい、それが本市の「日常の豊かさ」だと感じてもらうことができました。

参加者の感想で出た上にある言葉がとても印象的でした。昔からずっと住み続けている場所も、何かのきっかけで新しく住み始めた場所も、そこが心地よくいられる場所であれば、自分らしい暮らしを求めた先にある「ココロまじわうトコロ」なのかもしれません。